

# 住友化学



大阪工場・研究所のレスポンシブル・ケア活動

## 環境・安全レポート2024



## 目次

はじめに	1
構内紹介	2
会社紹介	4
住友化学グループが目指す姿	5
住友化学のカーボンニュートラル〜グランドデザインを策定〜 サステナビリティの取り組み	6
・SDGsの取り組み	7
・社会貢献活動	8
レスポンシブル・ケア	10
・レスポンシブル・ケア(安全、健康、環境、品質)基本方針	11
・レスポンシブル・ケア運営組織	12
働く人の健康と安全への取り組み〜ISO45001〜	13
環境への取り組み	15
・環境処理設備など	15
・排水処理施設や液中燃焼処理の概要	16
・ISO14001	17
省エネルギーの取り組み	18
リサイクル推進に向けての取り組み	20
保安・防災活動の取り組み	22
教育・訓練の取り組み	23
地域の皆さまとのコミュニケーション	24
大阪工場・研究所などを数字でご紹介	26
・法の遵守状況	26
・大気汚染防止法・水質汚濁防止法より	27
・地球温暖化防止法より	28
・廃掃法などより	29
・特定化学物質の管理・PRTR法より	30
・環境会計	32
表紙のことば	巻末
ご意見・ご感想をお聞かせください！ (環境・安全レポート 2024 アンケート用紙)	巻末



# はじめに



大阪工場長  
矢野 浩二

みなさまには平素より住友化学株式会社大阪工場・研究所の事業活動に温かいご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

大阪工場は半導体デバイスを製造するための薬品「フォトレジスト」を主力製品として製造しており、通信機器・医療機器の製造を含む世界のエレクトロニクス産業に供給しています。より高度な生産活動を追求すべく、製造・販売・研究が一体となり、市場の変化に柔軟に対応しながら、日々努力を続けております。

長年培ってきた有機合成技術を他製品の開発にも応用するなど、新たな価値創造を通じた持続的な成長を目指すとともに、健康、食糧、気候変動など、社会が直面している課題の解決と持続可能な社会の実現に貢献すべく、「安全をすべてに優先させる」という基本理念のもと、工場の安全・安定操業に引き続き尽力いたします。

大阪工場・研究所は、住友化学グループの研究開発・ものづくりの一翼を担う事業所としまして、コンプライアンスを基盤とし、開発から製造、流通、使用、廃棄に至る製品の全ライフサイクルにわたって安全・健康・環境・品質に責任を持つ「レスポンジブル・ケア(RC)活動」に積極的に取り組んでいます。

最近のRC活動の取り組みや実績を本レポートに取りまとめましたので、ご一読いただき、ご理解を深めていただきますとともに、今後とも末永くみなさまのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



# 構内紹介



## 住友化学大阪工場・ 研究所へようこそ



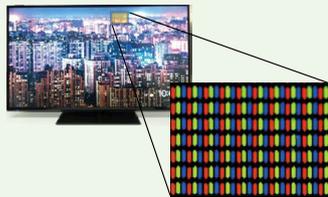
※工場内には、法律（消防法、石油コンビナート等災害防止法）に基づき、化学消防車を配備しています。



## 大阪工場の主な製品紹介



フォトリソグ (半導体デバイス用)



カラーレジスト「タイプライト®」  
(液晶ディスプレイ用)



高分子添加剤



有機ゴム薬品



# 会社紹介

## 住友化学

社長	岩田 圭一
創業	1913年 9月 22日
営業開始	1915年10月 4日
設立	1925年 6月 1日
資本金	899億円
連結売上高	28,952億円 (2024年3月期)
連結従業員数	32,161名 (2024年3月31日現在)
本社所在地	(東京) 東京都中央区日本橋2丁目7番1号 東京日本橋タワー (大阪) 大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友ビル
事業部門 (連結)	アグロ&ライフソリューション部門、 ICT&モビリティソリューション部門、 アドバンストメディカルソリューション部門、 エッセンシャル&グリーンマテリアルズ部門



住友化学って  
どんな会社？

## 大阪工場・研究所

工場長	矢野 浩二
所在地	大阪市此花区春日出中3丁目1番98号
住友化学	大阪工場、工業化技術研究所、生物環境科学研究所、先端材料開発研究所、 バイオサイエンス研究所、アグロ&ライフソリューション研究所、 ICT&モビリティソリューション研究所
構内グループ会社	株式会社イージーエス、住化ポリカーボネート株式会社、 日本エイアンドエル株式会社、朝日化学工業株式会社、 住化ケムテックス株式会社、大阪ゼネラルサービス株式会社、 住化テクノサービス株式会社、住友ファーマ株式会社、 住化ロジスティクス株式会社、株式会社シアテック、 株式会社住化技術情報センター、株式会社住化パートナーズ、 株式会社住化分析センター
従業員数	1,345名 (構内グループ会社を含む構内勤務者 2,523名) (2024年4月1日現在)
敷地面積	約288,000㎡



大阪工場・研究所って  
どのくらいの広さか  
あるのですか？



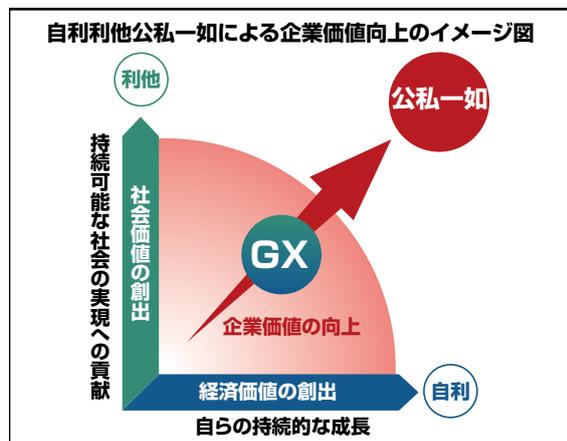
甲子園球場の  
約 7.5 倍の広さです。



# 住友化学グループが目指す姿



住友化学グループは、1913年、別子銅山（現在の愛媛県新居浜市）で行われていた住友の銅精錬事業において生じた煙害を解決するために、原因となる銅鉱石中の硫黄分を取り出し、それを原料に肥料を製造する「住友肥料製造所」としてスタートしました。



「環境問題の克服」と「農業振興への貢献」を共に目指して設立された当社は、社会の信頼に応えることを最も大切にするという住友の事業精神と、「自利利他 公私一如」、すなわち「自身を利するとともに、事業を通じて広く社会に貢献していく」という考え方を創業以来、脈々と受け継いできました。

## 住友化学が目指すGX



私たちは、サステナブルな社会の実現に向けて、カーボンニュートラルや生態系保全等の社会的課題に対して、広義のグリーン・トランスフォーメーション（GX）を進め、事業を通じてその解決に貢献して参ります。

広義のGXとは、環境に配慮した先端技術を使い、産業構造を変革（トランスフォーメーション）する取り組みを指します。住友化学は、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすること（カーボンニュートラル）、人と自然が共生する世界の実現・食糧の安定確保と環境との調和（生態系保全）、世界中の人々の健康的な生活の確保（健康促進）を目指します。

住友化学は『2022～24年度 中期経営計画』において、広義のGXの骨子を明確にし「Change& Innovation～with the Power of Chemistry～」のスローガンの下、全従業員が自分ごととして推進して参ります。

## Change and Innovation with the Power of Chemistry

総合化学の力を結集し、社会課題の解決に貢献



QRコードにて、住友化学ホームページの各種情報をご覧いただけます。

住友化学の  
会社案内  
(冊子・映像)



住友化学の  
企業理念



住友化学  
100年の歩み  
(冊子・映像)



住友化学の  
『2022～24年度  
中期経営計画』



# 住友化学のカーボンニュートラル ～グランドデザインを策定～

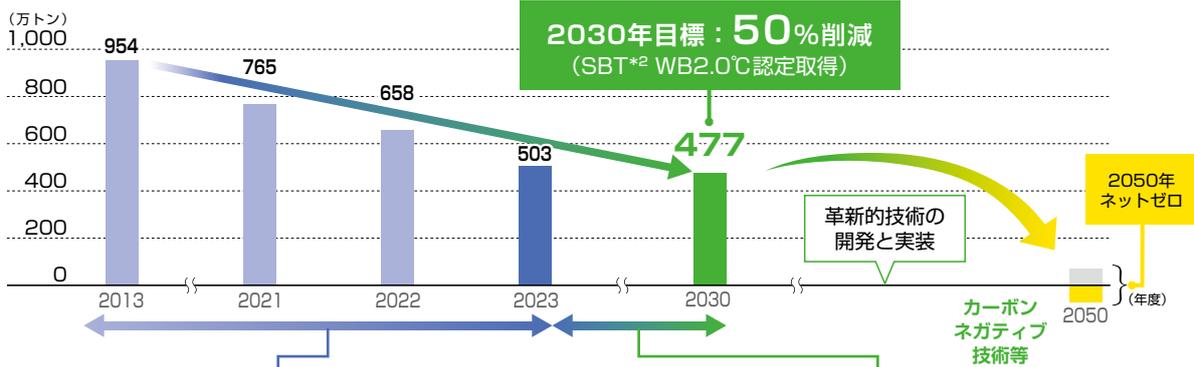


住友化学は、2050年カーボンニュートラル実現を目指します。  
未来に向けて、「責務」と「貢献」の両面で推進します。

## 責務

住友化学グループのGHG排出量をゼロに近づける

住友化学グループとして、  
温室効果ガス(GHG)排出量を2030年度までに  
50%削減(2013年度比)を目指す



### これまでの取り組み

- 製造プロセスの省エネ、合理化
- 千葉工場、愛媛工場の再構築 (エチレンプラント停止、液相法カプロラクタム停止など)
- 燃料転換 (LNG導入等: 愛媛・千葉工場)、再エネ電力導入

### 2030年度に向けた取り組み

- 製造プロセスの徹底的な省エネ・合理化 (BAT\*1活用)
- 構造改革や外部連携推進を通じた、燃料・エネルギー需給最適化 (愛媛・千葉工場等)
- 再エネ電力導入推進
- CO<sub>2</sub>以外のGHG排出量の削減など

\*1 Best Available Technology (事業者が利用可能な最良の技術)  
\*2 Science Based Targets (科学と整合した目標設定)

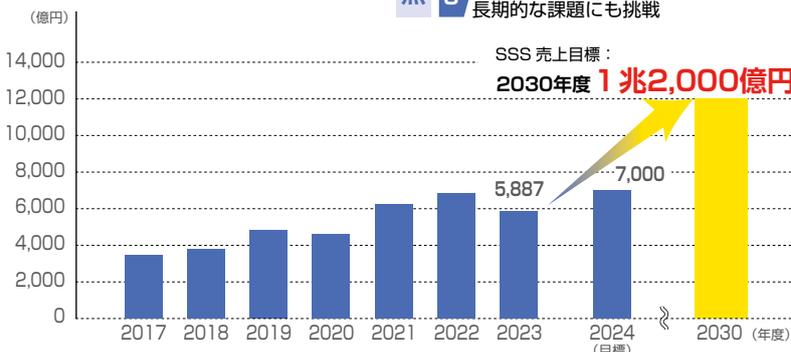
## 貢献

住友化学グループの製品・技術を通じた世界のGHG削減

さまざまなステークホルダーと連携し、  
世界のGHG削減に貢献する製品・技術の  
いち早い社会実装を実現

事業を通じた貢献  
Sumika Sustainable Solutions (SSS)\*による実績と目標  
SSS 売上収益の目標

- 3つの視点
- 1 カーボンニュートラルに貢献する製品やソリューションを提供
  - 2 カーボンニュートラルに資する技術の開発と早期社会実装を牽引
  - 3 カーボンネガティブ技術の開発など長期的な課題にも挑戦

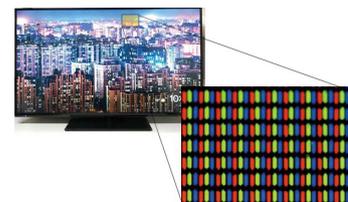


\*温暖化対策、環境負荷低減などに貢献する製品・技術を認定し、その開発や普及を促進する取り組み

### 大阪工場のSSS認定製品の例



### カラーレジスト「ダイブライト®」



### 高分子有機EL材料



# サステナビリティの取り組み ～SDGsの取り組み～



## 将来世代へ持続可能な社会づくりを推進

住友化学グループは、「サステナビリティ推進基本原則」を制定しています。住友の事業精神「自利利他 公私一如」に基づき、サステナビリティの推進にあたっては、イノベーションを通じて、経済価値（自利）と社会価値（利他）を同時に創出すること、そして持続可能な開発目標SDGsの達成などの国際社会の重要課題の解決に貢献することを目指しています。

また、さまざまな機会を通じて当社グループのステークホルダーとのコミュニケーションを図っています。（事例P.8～9ご参照）

これからも“誰ひとりとして取り残さない。”という考えをもって事業に邁進して参ります。



国際連合加盟国は、2015年9月に開催された「国連持続可能な開発サミット」において「アジェンダ2030」を採択しました。これは、極度の貧困や不平等・不正義をなくし、私たちの地球を守るための計画です。計画は「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals=サステナブル・デベロップメント・ゴールズ:SDGs=エスディー・ジーズ）」として、経済、社会、環境をめぐる様々な課題に対して、2030年までに達成すべき17のゴール（目標）を掲げています。すべての国に、普遍的に適用されるこれらの目標は、わかりやすい17のアイコンで表現することで、国際社会のあらゆる人々が協力して取り組むこととしています。



工場長の特一  
(特に重きを置く1枚のカード)  
をインタビューしました。  
働きがいや経済成長は、  
ほかのカードも抜きには  
成し得ないという深い意味が  
あるのですね。



## 社会からの評価

住友化学は、このたび、国際NGOであるCDPが実施した「サプライヤー・エンゲージメント評価」において、最高評価である「サプライヤー・エンゲージメントリーダー」に5年連続で選定されました。

またさらに、弊社の多様なサステナビリティの取り組みを通して、各種の認定機関からも評価を頂いております。これらの証しを励みとして、今後もひたむきに歩んで参ります。

各ロゴマークの詳細はQRコード「サステナビリティデータブック2023」のP.45にてご覧下さい。



CDPとは、2000年にイギリスで設立された国際的な環境非営利団体(NGO)です。2017年より、企業のサプライチェーン全体における温室効果ガス(GHG)排出量削減や気候関連リスク低減の取り組み、サプライヤーへの働きかけや効果的な協働に関する評価を実施しています。



QRコード：住友化学「サステナビリティデータブック2023」

# サステナビリティの取り組み ～社会貢献活動～

## 3 オイスカ「子供の森計画」こども親善大使トークイベント開催 (2024年5月20日)

従業員と会社が一体となって行う社会貢献活動として、2007年から住友化学グループの役員から寄付を募り、寄付金額と同額を会社が拠出して支援先に寄付する「マッチングギフト制度」に労働組合と協働で取り組んでいます。また、マッチングギフト制度の寄付金を通じた支援先の一つである公益財団法人オイスカ<sup>\*1</sup>とともに各種植林プロジェクトに取り組み、労働組合と協働し、2008年から従業員ボランティアを派遣しています。

このほどオイスカの「子供の森計画」でタイとインドネシアの農村地域で活動に参加している小学生「こども親善大使」と現地スタッフが来日し、地域で直面する課題や活動の中で得られた気づき・学びについてご報告いただく等の貴重なトークイベントがありました。



①会場（住友化学㈱大阪工場）にて、イベント開始前の様子

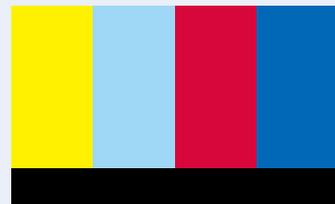


### ●オイスカとは

オイスカ・インターナショナル (The Organization for Industrial, Spiritual and Cultural Advancement-International)は、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に設立されました。本部を日本に置き、41の国と地域で活動を展開する国際NGOです。

公益財団法人オイスカ(以下、オイスカ)は、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。特に、人材育成に力を入れ、各国の青年が地域のリーダーとなるよう研修を行っています。オイスカの研修を修了した各国の青年は、それぞれの国で農村開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通しての啓発活動や、植林および森林整備による環境保全活動を展開しています。

### オイスカ標章



5色は、天(青)・火(赤)・水(水色)・地(黄)、そしてこれら4要素を調和的に活動させ人類万物のいのちを生成発展させる源である宇宙(黒)を表し、オイスカの世界観



4人の小学5年生の皆さんによる日本語での活動報告や踊りの発表など、住友化学大阪工場の現地会場やオンラインでの参加者（総勢約100名）は大きな感動を覚えました。

私どもは学びを与えて頂きました事で、サステナブルな社会の実現に向けて、しっかりと事業展開をする事の大切さと責任を一人ひとりが自覚し、心を新たにする機会を頂きました。子供たちが、現地へ是非来てください!と声を揃えていた事に応えられるように。



②タイの子ども親善大使からの報告



③インドネシアの子ども親善大使からの報告



④踊りの披露(伝統舞踊に加え、植林前にアイスブレーキングとして皆で踊るダンスを披露)



⑤現地会場の参加者全員が一緒に元気に踊りました。



⑥子ども親善大使より  
手作りプレゼント贈呈



⑦現地会場記念写真

# レスポンシブル・ケア

## 1 レスポンシブル・ケアとは

レスポンシブル・ケアとは、化学製品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るすべての過程において安全・健康・環境を確保するための、事業所による自主活動です。対話を通じて相互理解に努め、社会の持続的発展に貢献するとされています。（日本化学工業協会）レスポンシブル・ケア活動は、1985年にカナダで発足しました。



レスポンシブル・ケアのシンボルマークは、“両手と分子模型”をデザインしたもので、『化学物質を大切に扱う』という意味が込められ、手のひらで包み込んでいる様子を表しています。

ICCAが定めた国際的に共通のロゴマークであり、会員企業のみが使用を許諾されています。

1989年に国際的組織として国際化学工業協会協議会（ICCA）が設立され、レスポンシブル・ケアも主な活動として位置づけられました。活動の推進を担うレスポンシブル・ケア・リーダーシップグループ（RCLG）の加盟国は日本を含めて63ヶ国を数えます（2021年時点）。

日本では、社団法人日本化学工業協会（JCIA）の中に日本レスポンシブル・ケア協議会（JRCC）が設立され、多数の化学品関連企業が会員となっています。

住友化学は、レスポンシブル・ケアの基本となる安全・健康・環境に加えて、化学製品の品質についても重視しています。ものづくりの企業として総合的に取り組んで参ります。

## 2 レスポンシブル・ケアの実施について

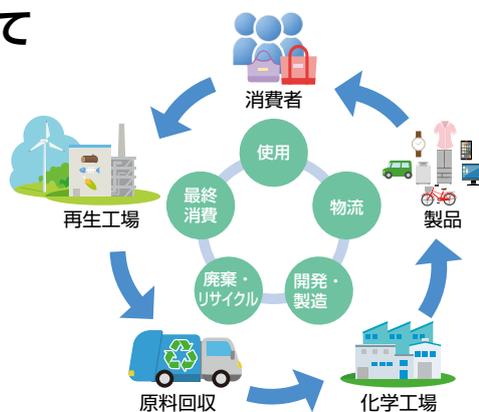
私たち住友化学は、住友の事業精神にのっとり、人類生存の基盤を支え、社会の発展に幅広く貢献する製品を開発、生産、供給することを使命としています。

そして化学物質を扱う事業者として責任ある自主的な行動をとることが、求められていると認識をしています。

「自分ごと」として住友化学グループの役職員全員が取り組みます。

コンプライアンスを基盤として、「安全をすべてに優先させる」ことを基本に、製品の開発から廃棄に至る事業活動のあらゆる段階において、環境保全や品質管理に努めています。

レスポンシブル・ケア活動に積極的に取り組むことにより、社会の信頼を得て、事業活動を推進し社会の持続可能な発展に貢献していきたいと考えています。



住友化学では次の項目について目標を掲げ、計画に基づいて自主的・主体的に活動しています。

- 環境保全 …… 地球上の人々の健康と自然を守ります。
- 保安防災 …… 設備災害の防止や自然災害対策に努めます。
- 労働安全衛生・健康 …… 働く人々の安全と健康を守ります。
- 物流安全 …… 物流における事故、災害の防止に努めます。
- 化学品・製品安全 …… 化学製品の性状と取扱方法を明確にし、顧客も含めた全ての取扱者の安全と健康、環境を守ります。
- 社会とのコミュニケーション …… 活動内容・成果を公表し、対話を進めます。



## レスポンシブル・ケア基本方針

### 2024年度 レスポンシブル・ケア年度方針

### 2024年度 大阪工場・研究所 安全・環境活動方針



この方針にそって  
運営しているんですよ。

2024年度 健康づくり活動具体取組み

2024年4月1日  
大阪工場 総務部  
健康開発センター

矢野浩二

2024年度 大阪工場 品質方針 (2022~24年度中期経営計画 最終年度)

2024年4月1日  
大阪工場 品質委員会

矢野浩二

<品質基本方針>  
お客様が安心して使用し、満足し、信頼できるより良い商品を提供いたします。  
<基本的考え方>  
マネジメントシステムと製品品質の継続的改善に取り組みとともに、  
大阪工場デザインレビューによる開発ゲート管理システムを活用して

2024年4月1日

住友化学株式会社

大阪工場長

矢野浩二

#### 大阪工場環境方針

【基本方針】エコ・ファーストの約束に基づき、当工場の事業活動における環境負荷の評価と低減を行い、環境保全に努めます。

- ・持続可能な社会の実現と生物多様性の保全の為、生産活動に係る全部門において省資源、省エネルギー、廃棄物の削減を進めると共に温室効果ガス(GHG)排出量の削減など、環境負荷の低減に努めます。
- ・環境に関する法令や協定等を守ることはもとより、適切なリスク評価と管理を行い、環境汚染の予防に努めます。
- ・環境方針を達成するために、ISO14001環境マネジメントシステムを活用し、環境目的・目標を定め、かつ定期的に見直し、環境管理計画を実行することにより継続的な改善を図るとともに、社内外の監査を通じてマネジメントシステムを向上し、基本方針の達成に努めます。
- ・全従業員の基本方針の理解と環境に関する意識の向上を図るとともに、協力会社及び構内グループ会社へも環境方針を周知し、理解と協力を要請します。
- ・『地域社会との共存共栄』、『無事故無災害』、『顧客優先』を基本理念とし、周辺環境の変化に対応し、地域の皆さんや関係諸官庁とのコミュニケーションを図り、地域社会に貢献します。

#### 2024年度 大阪工場業務運営方針

2024年4月1日  
大阪工場

矢野浩二

変革に果敢にチャレンジし、ものづくりの未来を切り拓く

#### 基本方針

I 安全・安定操業のもと、高度で収益性の高い生産活動を追求する

2024年4月1日  
住友化学株式会社

大阪工場長

矢野浩二

#### 大阪工場・研究所 安全衛生基本方針

働く人の安全衛生の確保は企業存立の基盤をなすものであり、企業の社会的責任でもある。私たちは、安全衛生に関し下記の基本理念のもとに以下の事項を実施する。

#### 基本理念

#### 「安全をすべてに優先させる」

- ・安全衛生はライン管理が基本である
- ・安全衛生は一人ひとりに遂行責任がある
- ・安全衛生は協力会社と一体である

1. 労働災害をゼロにするため、働く人及び働く人の代表と協議をし、働く人全員の参加の下、労働安全衛生マネジメントシステムのPDCAサイクルを適切に回し、継続的に職場のあらゆる危険・有害要因を排除する。
2. 働く人の安全衛生を確保するため、労働安全衛生法等の関係法令および命令はもとより、会社および大阪工場で定めた規程等を遵守する。
3. 働く人の健康障害を防止し、疲労やストレスを軽減するため、快適な職場環境への改善を継続的に進める。
4. 安全衛生教育・啓発活動を実施し、働く人の安全衛生意識の向上を図る。
5. この方針は、協力会社・構内関係会社へ周知し、理解と協力を要請する。

この方針は社内へ公表する。

「無事故無災害」  
「顧客重視」  
「地域社会との共存共栄」が  
大阪工場・研究所の  
基本理念です。



## 大阪工場 安全・環境委員会

住友化学	構内グループ会社	
大阪工場	イージーエス	住友ファーマ
工業化技術研究所	住化ポリカーボネート	住化ロジスティクス
生物環境科学研究所	日本エイアンドエル	シアテック
先端材料開発研究所	朝日化学工業	住化技術情報センター
バイオサイエンス研究所	住化ケムテックス	住化パートナーズ
アグロ&ライフソリューション研究所	大阪ゼネラルサービス	住化分析センター
ICT&モビリティソリューション研究所	住化テクノサービス	

### 各種委員会など

- 安全衛生委員会
- GX 推進連絡会
- 構内グループ会社  
レスポンシブル・ケア連絡会
- リサイクル担当者会議
- 省エネルギー推進委員会

### 安全衛生協力会\*

- 工事部会
- 物流部会
- サービス部会

## 社会に対するレスポンシブル・ケア活動



\*安全衛生協力会とは、大阪工場・研究所の工事、運輸、サービス業務を行なう会社の安全衛生管理組織です。

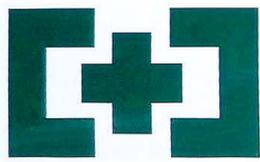
# 働く人の健康と安全への取り組み ～ISO45001～



あらゆる面から無事故・無災害の生産活動を目指し、継続的に労働安全衛生に取り組み「安全をすべてに優先させる」ことを実践しています。

安全衛生協力会なども含め構内で働く全ての人が意識して行動します。

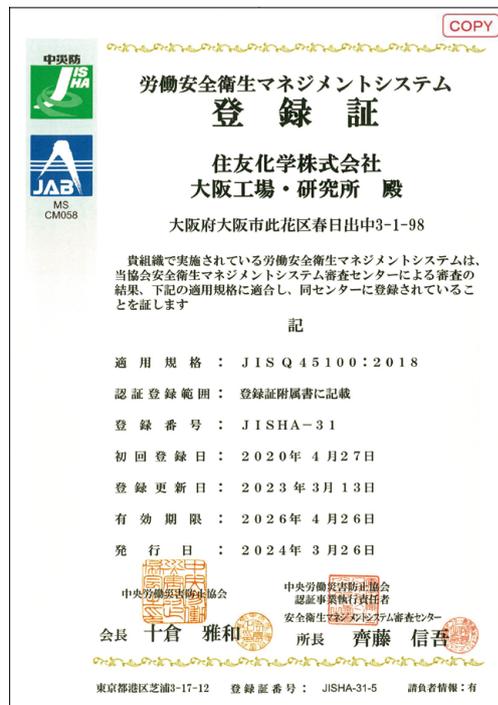
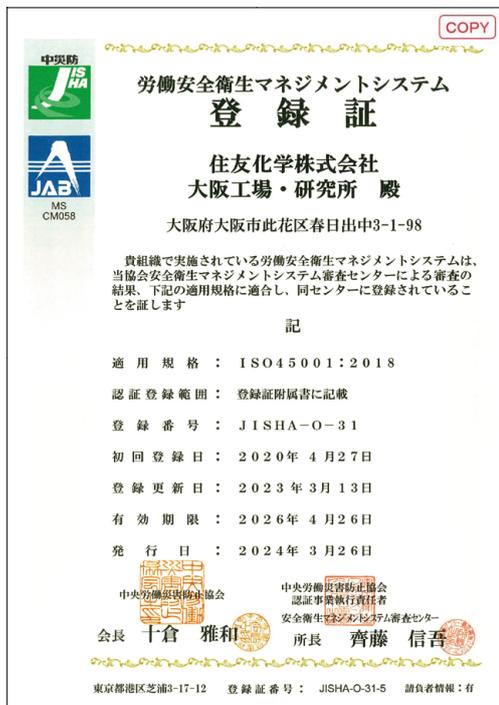
2022～2024年度 全社安全衛生スローガン



## 危険の芽 リスクベースで 総点検 みんなで改善 快適職場



## ISO45001について



ISO45001は、労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格です。大阪工場・研究所では、2020年1月および3月に中央労働災害防止協会の審査を受け、2020年4月に住友化学の事業所では初めてJISQ45100(ISO45001)に登録されました。

JISQ45100とは、ISO(JISQ)45001に4S(整理・整頓・清潔・清掃)活動や危険予知(KY)活動といった職場で日常的に行われている安全衛生活動や、働く人の健康確保の取り組みなどを要求に加えた日本独自の規格(JISQ45100)で、より高い労働災害防止効果を狙いとしましたものです。

JISQ45100を実施することにより国内外のOSHMS\*の基準に対応し、ISO(JISQ)45001とJISQ45100の2つの認証を取得しました。

2024年2月27～28日には、中央労働災害防止協会によるサーベイランス審査を受審しました。サーベイランス審査とは、1年に1回行われるマネジメントシステムの適合性や有効性を評価する審査のことで、ISOの取得後も要件を満たし続けているかをチェックする審査です。

\*Occupational Safety and Health Management System

# 働く人の健康と安全への取り組み ～ISO45001～

## 2 朝の挨拶運動について

「出勤時と同じ元気な姿で帰宅しよう!」の当社マスコット“すみかちゃん”デザインののぼりを新しく作り、朝の挨拶運動を実施しました。その日、出勤した構内の従業員すべての人が「安全をすべてに優先させる」ことを今一度認識してもらう取り組みです。



工場長、各研究所長等による挨拶運動  
2023年11月8日～14日、2024年6月4日～7日

## 3 転倒防止の取り組みについて

厚生労働省を中心に推奨している「STOP!転倒災害プロジェクト」は、休業4日以上死傷災害で最も件数が多い「転倒災害」を減少させるための取り組みです。大阪工場・研究所では従業員の意識づけを目的に、構内で従事する方を対象に次の二つの測定を行いました。

### ● 歩行姿勢測定（2024年2月13日～3月15日、5月7日～6月18日実施）

歩行姿勢測定を半年ごとに年2回実施します。測定により自身の歩行姿勢の特徴や歩行年齢の実態を知ること、今後の転倒災害撲滅に役立てて参ります。

算出された推定歩行年齢と、自身の年齢とに乖離があると、喜んだり、残念がったりしています。歩行姿勢を改善するアドバイスも受けられ、次の測定までに目標を持って取り組んでいます。



測定器に向かって歩く様子



測定結果

(A:速度年齢、B:バランス年齢、C:姿勢年齢)  
\* 見本データにつき個人情報ではありません

### ● 筋力・骨密度測定（2023年12月4日、2024年3月21日実施）

2023年度から、転倒災害防止の意識づけとして、内転外転筋力とひざ下伸展力の2種類の筋力測定、また超音波骨密度測定を始めました。測定により自身の筋肉量や骨密度の実態を知ること、歩行姿勢測定の結果と併せて、転倒災害撲滅に役立てて参ります。



内転外転筋力測定



ひざ下伸展力測定

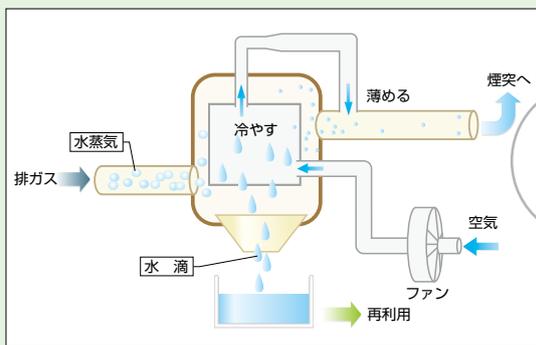


超音波骨密度測定

# 環境への取り組み ～環境処理設備など～



大阪工場・研究所では、環境汚染対策設備を設置し、汚染を防止しています。また、分析を行う住化分析センターや、化学物質の環境への影響などを研究する生物環境科学研究所、さらには安全・防災・環境に配慮した生産プロセスの開発を行う工業化技術研究所が立地しており、トータルで環境に配慮する事業所を目指して幅広く取り組んでいます。



煙突から出る白い煙は、水蒸気です。その水蒸気を空気で冷却して凝集水にすることで、大気中への水蒸気の排出をほとんどゼロにしました。



〈改善前〉

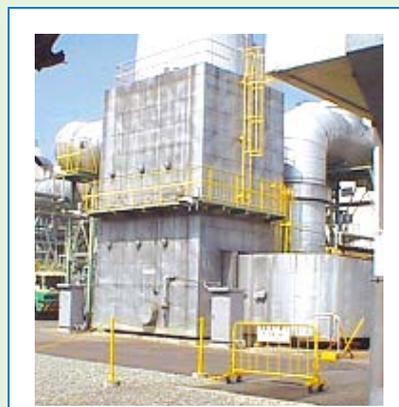


〈改善後〉

白煙対策設備（大気による冷却と希釈）



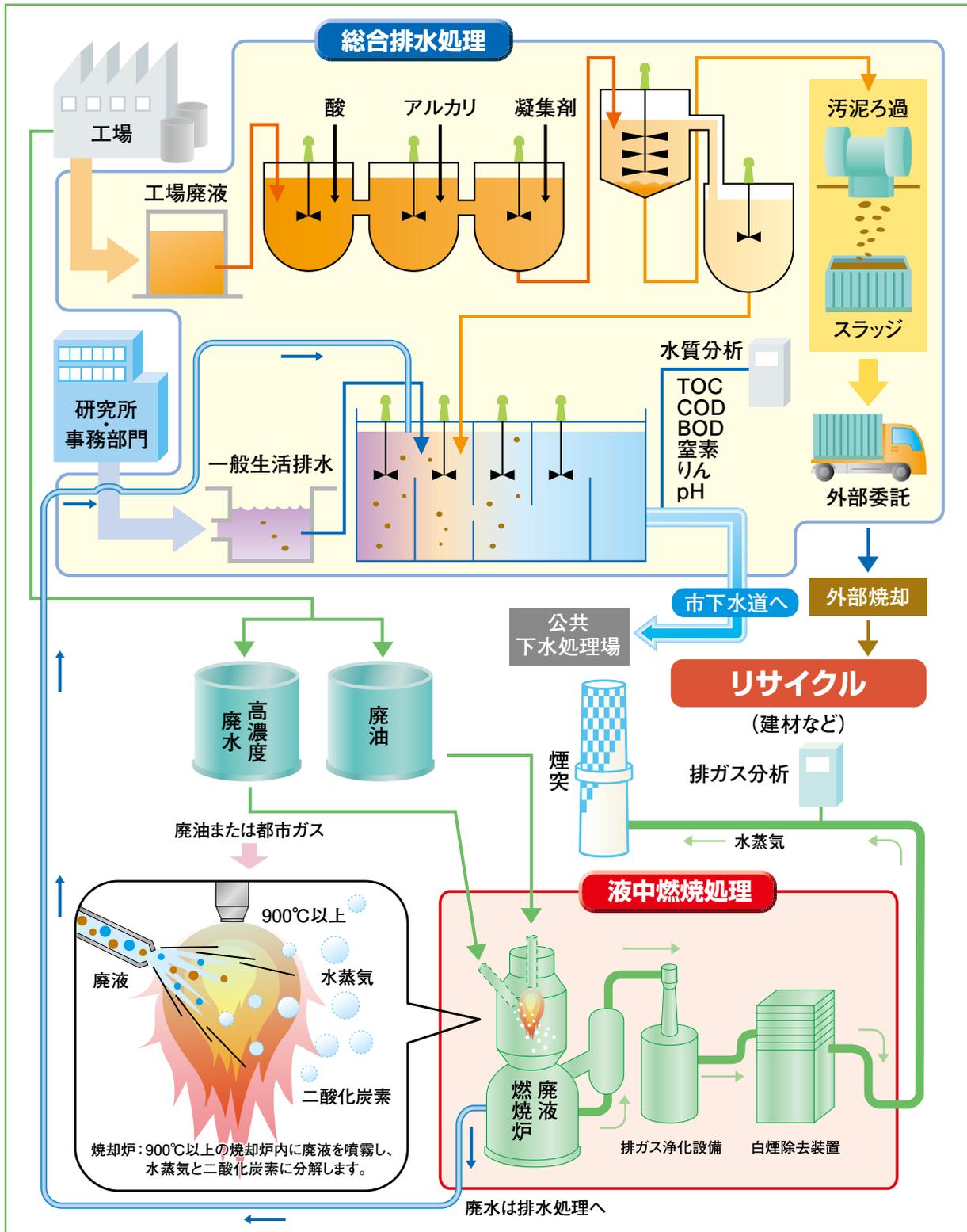
高濃度廃水焼却設備



排煙脱硝設備

# 環境への取り組み

## ～排水処理施設や液中燃焼処理の概要～



TOCとは、水・泥などに含まれている有機物中の炭素量のことで、水質を管理する指標として広く採用されています。CODとは、化学的酸素要求量のことで、湖や川、海などの水の汚れの程度を表すもので、汚れ（有機物）が化学的に分解（酸化）される時に使われる酸素の量を濃度で表した値を言います。大阪工場・研究所では、高濃度廃水を液中燃焼炉などの高度処理設備で処理しています。BODとは、生物化学的酸素要求量のことで、湖や川、海などの水の汚れの程度を表すもので、汚れ（有機物）が微生物によって分解（酸化）される時に必要とする酸素の量を濃度で表した値を言います。COD、BODともに、この数値が高いほど、水中の有機汚濁物質の量が多いことを示しています。

# 環境への取り組み ～ISO14001～

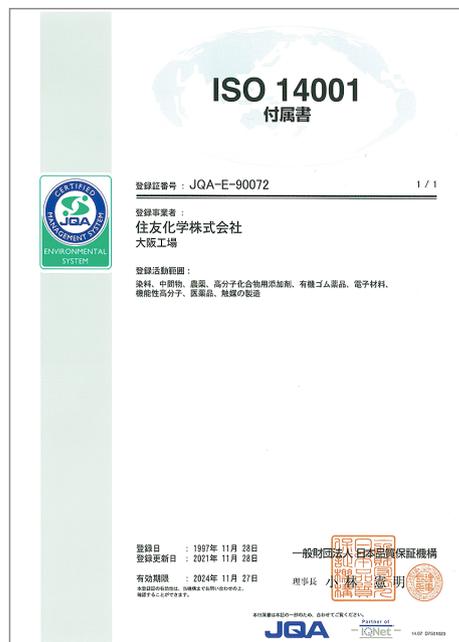


大阪工場は、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を受け運営しています。

ISO14001は、環境法令を守ることはもとより、環境への影響を継続的に改善するとともに、事故の予防や緊急時対応を確実にを行う国際的な管理システムです。大阪工場では、1997年に認証を取得以降、毎年の審査を受けています。書類だけでなく実際に製造現場も丁寧に確認され、活動内容をより良いものに改善できる貴重な機会です。

大阪工場の主な取り組み事項を下記に示します。

- (1) エコ・ファーストの約束に基づく対応
- (2) 省資源・省エネルギーの推進
- (3) 廃棄物の削減とリサイクルの推進
- (4) PRTRの推進
- (5) 保安防災の取り組み
- (6) 各種教育の実施



## JQAによる定期審査 (2023年10月17日～18日実施)



現場審査の様子



現場 (ラボスケール) 審査の様子

# 省エネルギーの取り組み

1998年に省エネルギー推進組織を発足以来、省エネルギーを中心とした地球温暖化防止に積極的に取り組んでいます。第1種エネルギー管理指定工場である大阪工場は、電力使用量が増加傾向になる夏季および冬季を省エネルギー期間と定めて、さまざまな活動を実施しています。

さらには、節電メニューを設定し、大阪工場・研究所および構内のグループ会社や協力会社も一体となって約100項目のきめ細やかな対策に取り組み、省エネルギー活動のひとつとして継続しています。

水やLNG（液化天然ガス）等についても各部署ごとの使用量を見る化しており、節水・節ガスに取り組んでいます。

## 生産・研究活動における省エネルギーの取り組み

照明など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人感センサーによる無駄な電力削減の推進。</li> <li>・照明のLED<sup>*1</sup>化や変圧器の更新。</li> <li>・2023年度は、約114700kWh/年の省電力を達成しました。</li> </ul>
発電設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガスコージェネレーションシステム（CGS）<sup>*2</sup>で電気とともに発生した蒸気を有効活用。（CGSは、都市ガスを燃料として発電し、その排熱を利用して蒸気を発生させる効率の良いシステムです。）</li> </ul>
空調・換気	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究所の空調は、実験の安全性と省エネ性を兼備。</li> <li>・ガスヒートポンプ（GHP）<sup>*3</sup>も採用。GHPは電気ではなくガスで空調を行うため、電気ヒートポンプ（EHP）に比べて、消費電力量が大幅に少なくなり、電力需要抑制に大きく貢献します。</li> </ul>
機械の動力など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インバータの活用や高効率のエコポンプの採用を推進。</li> </ul>
廃液焼却処理施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排熱を回収して、温水に利用。（P.19の図ご参照）</li> </ul>
省エネ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネパトロールの実施、省エネニュースの発行など。</li> <li>・ソーラーLEDの導入検討継続<sup>*4</sup></li> <li>・冷水塔更新（能力の適正化および循環ポンプの運転方法見直し）により、年間40t-CO<sub>2</sub>削減。<sup>*5</sup></li> </ul>

※1 LED照明（室内灯）（外灯）



※2 コージェネレーションシステム



※3 ガスヒートポンプ



※5 冷水塔更新によりCO<sub>2</sub>削減



※4 ソーラーLED

ソーラーLED外観（拡大）



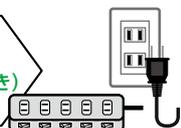
夜間自動点灯



夜間自動点灯後、人感センサー検知により照度アップ



待機電力の削減  
(不要時のプラグ抜き)



昼休みの  
不要照明の消灯



パソコンの省電力設定、  
不在時ディスプレイ  
OFF!





# リサイクル推進に向けての取り組み

## 1 廃棄物の管理

大阪工場・研究所では廃棄物について、排出者としての責任の下、廃棄物の管理を行っています。

各部署のリサイクル担当者が定期的な会議を行い、3Rや廃棄物の適切な分別について情報共有しながら、廃棄物の円滑な排出・処理に努めています。

社内の分別排出ルール『3Rガイドブック』で、分別方法などを常時確認しています。

大阪市環境局の方針も周知し、事業系一般廃棄物の低減も図っています。

また、構内グループ会社の株式会社イージーエス（産業廃棄物処分量など）と連携をとりながら、産業廃棄物の適正処理を推進しています。

『プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律』（令和4年4月施行）については、これまでの3R（廃棄物の発生量を、減らすこと・再利用すること・リサイクルすること）に加えて、+Renewable（資源化すること）に向けて取り組んでいます。

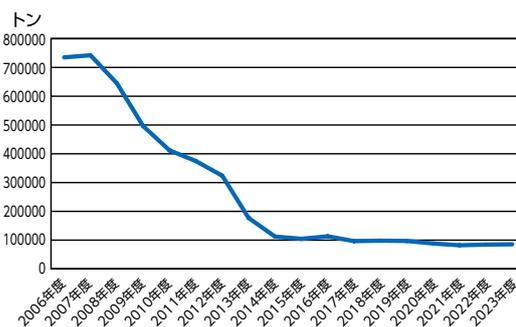


3Rは、  
Reduce(減らす),  
Reuse(もう一度使う),  
Recycle(再生する)の  
ことですね。

### ● 廃棄物の適切な分別例



### ● 事業系一般廃棄物の推移



事業系一般廃棄物排出量推移

### ● 廃棄物の適切な分別保管

産業廃棄物と事業系一般廃棄物等について、排出者となる私ども一人ひとりが、その区分を意識して廃棄物を取り扱っています。

リサイクル推進のために廃棄物を種類ごとに分別することに努めています。

「廃棄物にも品質を」のポリシーに基づいて、廃ガラスも2種類に分別管理しています。

また各契約業者と適宜連携を取りながら、リサイクルや不具合の無い処理に努めています。



産業廃棄物と事業系一般廃棄物の回収容器を区分して配置



廃液類を適正に保管



手取りで中身を確認しながら丁寧に回収

## 2 お客さまにおける廃棄物削減対策

### ● 製品容器の回収

お客さまから容器を回収し、適正な処理を行なっています。



回収された製品の容器



製品の容器を収容するコンテナ  
(製品の出荷と容器の回収に使用)

お客さまの廃棄物削減にも協力しています。

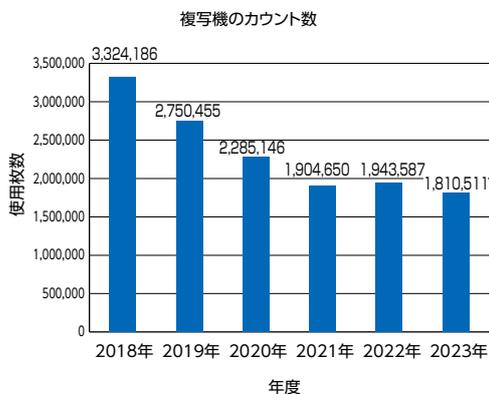


## 3 3Rの推進 Reduce (減らす), Reuse (もう一度使う), Recycle (再生する)

廃棄物の発生抑制および資源の枯渇防止の取り組みとして推進しています。

### ● 書類のペーパーレスを奨励 (Reduce減らす)

電子資料の利用を推進し、紙の使用量を削減。複写機のカウンタ数にも表れています。



### ● オフィス書類の再生化 (Recycle再生する)

使用したオフィス書類は、回収して、専門業者でトイレットペーパーに生まれ変わります。



オフィス系古紙の集積

### ● 『Reuseもったいない活動』 (Reuseもう一度使う)

未使用品や余剰品、まだ使用できるので捨てるにはもったいない物の情報を電子共有フォルダに公開。2021年5月よりスタートし、再利用を推進しています。

2024年6月現在では累計157件の登録があり、とても活況です。この活動で、物を購入する前に必要なものかを検討し、無駄な物を増やさない事や相互に積極活用することで、コスト削減にも寄与。物を大切に使う精神をあらためて実感しています。



ホコリ取りローラー



Wクリップ



ミニ応接セット



S/S  
SUMIKA  
PARTNERS

ちょっとした心遣い：  
貰って喜んでいただけるように、きれいに拭きあげる等、大切です。

# 保安・防災活動の取り組み



## 各種訓練

化学会社として、あらゆるリスクに対応するため構内グループ会社と連携して日々の安全確保に努め、保安防災活動に取り組んでいます。2024年度においては、コロナ禍以前と同様の訓練を計画・実施し、有事における迅速かつ確かな対応を確認することに加え、構内全体の保安防災の意識高揚を図っています。

### ● 総合防災訓練 (2024年6月7日実施)

地震発生後の二次災害として火災が発生したという設定のもと、住友化学自衛消防隊に加え、大阪北港地区共同防災組合陸上防災隊 (以下、共同防災隊という)<sup>\*1</sup>、大阪市消防局および此花消防署、大阪府政策企画部危機管理室と合同で訓練を実施しました。今回の訓練から放水訓練に加え、消防局と大阪府・市の三者による現地連絡所設置訓練も併せて行いました。

※1 共同防災隊…大阪北港地区 (コンビナート) にある自衛消防隊で、大型化学消防車、大型高所放水車、泡原液搬送車を所有し大阪北港地区で発生する災害出動に備えています。



自衛消防隊 化学消防車からの消火



共同防災隊 車載放水銃からの消火



此花消防署 車載放水銃からの消火



三者による現地連絡所の設営・訓練



此花消防署 署長による講評



大阪府HP

<https://www.pref.osaka.lg.jp/>

### ● 製造部消火栓操法競技会 (2023年11月30日実施)

消火栓操法<sup>\*2</sup>の習熟を目的とした競技会を本年も実施しました。いざという時の初期消火方法の一つとして、消火栓の操作は非常に重要です。各職場で消防隊を編成し、火災を想定した的に向けて放水を行います。この競技会では、職場間で正確性と速度を競い合うことで、製造部全体の防災意識および技能の向上を図っています。

※2 消火栓操法…消火栓を用いた初期消火活動の一つ。2～3人で隊を編成し、指揮者の指示の元、ホースの準備から鎮火までの一連の動作を指します。



指揮者による点呼および指示



消火位置へのホースの延伸作業



火元 (的) への放水活動

# 教育・訓練の取り組み



教育・訓練については、法定教育をはじめ意識教育、技能教育、緊急時処置訓練教育など多方面にわたり実施し、環境・安全についても幅広く教育を行っています。

## ●安全体感教育(2024年6月24日～9月13日実施)

VR(バーチャルリアリティ)階段転倒や、落下物衝撃体感、手洗い残留物体感、挟まれ巻き込まれ体感、感電体感などの体感研修を行いました。VR階段転倒では、ゴーグルを付けた体験者は危険をリアルに感じ取っていました。安全意識向上のため、今後も安全体感研修を実施して参ります。



VR階段転倒



回転体への巻き込まれ体験  
(動力部の力を感じ、布を引きちぎる様子)

## ●保護具(マスク)講習会(2023年11月15日実施)

製造現場や研究職場で使用する保護具類について、適正な使い方、着用方法や管理を定期的に学んでいます。また、再度確認することで更なる安全意識を高めています。



防塵マスク着用時の漏れチェック

## ●保護具(手袋)選定の為の講習会・試着会(2023年10月13日・25日・26日実施)

製造現場や研究職場、また工事関係の協力会社が使用する保護手袋(薬品用手袋、耐切創手袋)について、適正な使い方、着用方法や管理方法について学び、2024年4月からの法改正に向けて準備を進めました。



薬品用保護手袋試着の様子

## ●危険予知訓練4R-KYT演練大会(2023年11月22日実施)

普段から危険を予知する訓練として、4R-KYTという手法を用いて月に一度、各部署にて実施しています。その集大成として演練大会を開催し、時間内にイラストを見て優れた危険予知ができるか競う競技として、製造や研究の各部門が奮闘し、審査を経て順位が決まります。

※4R-KYT:危険予知トレーニングの代表的な手法(4ラウンド法)



時間内に模造紙に危険を書き出す様子



部署ごとの発表の様子

# 地域の皆さまとのコミュニケーション

## 1 構外放送用スピーカー

工場内に4カ所設置しており、工場内での必要な情報発信だけでなく、緊急時には地域の皆さまに向けて情報を発信できるようにしています。

また、大阪市の防災行政無線をそのまま流すことができ、津波などの大規模な災害が予想される場合には、地域の方に情報を速やかにお知らせできるようにしております。

「全国瞬時警報システム（Jアラート）訓練」にも活用されています。



北西方向



南西方向



北東方向



南東方向

## 2 広報紙「春日出」の発行

近隣住民の皆さまに、大阪工場・研究所での各活動を知っていただくため、広報紙を発行しています(新聞折り込み)。広報紙を通じて、住友化学をより深く知っていただくとともに、皆さまからご意見を頂戴し、地域の皆さまとともに発展していく住友化学でありたいと考えております。

2024年1月 411

住友化学  
〒565-0802 大阪府吹上区春日部1-1-69  
TEL: 06-6566-0202 FAX: 06-6566-0209  
連絡先: 広報課

2024年冬号 (通算第33号)

「春日出」は、近隣住民の方々に住友化学の活動や製品について知っていただくための広報誌です。毎月発行し、新聞折り込みでお届けしています。

◆ 新年度の挨拶 ◆  
住友化学株式会社 大阪工場 大野 浩二

◆ 2023年度版 ◆  
環境・安全レポートが完成しました  
住友化学大阪工場では、「環境・安全レポート」を発行し、工場内に架られた方に配布しています。今回は、「2023年度版環境・安全レポート」の中から教育・訓練に関する取り組みの一部を紹介いたします。

◆ 社内 ◆  
防災訓練実施  
万一の非常事態に備え、製造部・研究所それぞれが迅速に対応できるよう訓練を実施しています。今後とも災害発生への万全な対応ができるよう努めています。

◆ 住友化学 ◆

◆ 家庭の医学 ◆  
お医者さん、お薬のこと  
お薬は、私たちの生活を支える大切な存在です。お薬を上手に使うことで、健康を維持し、病気や怪我を早く治すことができます。お薬の正しい使い方や、お薬の副作用について、お医者さんと一緒に学びましょう。

◆ GLOBAL CLEAN-UP CHALLENGE ◆  
2023年11月10日、住友化学大阪工場で行われた「GLOBAL CLEAN-UP CHALLENGE」の様子が掲載されています。250名が参加し、清掃活動を行いました。

◆ 第43回 住友化学少年軟式野球大会 ◆  
2023年9月9日、第43回住友化学少年軟式野球大会が開催されました。当日は、選手たちによる激しい試合が行われ、観客も大盛り上がりでした。

◆ ペットボトルをみて化学を知ろう ◆  
大塚の家庭系2人組の協力で、ペットボトルの成分や構造について、おもしろい実験を行いました。おもしろい実験を通して、化学の面白さを知ることができます。

◆ クイズコーナー ◆  
2023年9月9日 住友化学少年軟式野球大会の開催地は、大阪市吹上区春日部1-1-69です。正解は、250名です。



### 3 清掃活動

大阪市主催「大阪マラソンクリーンUP作戦」をはじめとし、近隣地域の清掃を実施しています。



2023年11月30日実施



2024年5月22日実施



# 大阪工場・研究所などを数字でご紹介

## 法の遵守状況

2023年度の環境関係の法律や保安・防災に関する法律の遵守状況については、以下のとおりです。



### 環境規制値の監視・遵守状況

測定結果は、いずれも法規制値以下でした。



分類	法令	測定項目	測定頻度	対象施設等
大気	大気汚染防止法	ばいじん, NOx, SOx, 酸素濃度	1回/2ヵ月	コーシレーション 1基 液中燃焼炉 2基
			1回/6ヵ月	ボイラー 4基 ガスエンジン 5基
		水銀	1回/4ヵ月	液中燃焼炉 2基
		燃料使用量, 排ガス流量 (*印の施設ではNOxも常時測定)	常時(連続)	コーシレーション 1基* 液中燃焼炉 2基* ボイラー 4基 ガスエンジン 5基
廃棄物の処理 及び清掃に関する法律	ダイオキシン類	1回/3ヵ月	液中燃焼炉 2基	
水質	下水道法	排水量, TOC, COD, 浮遊物質, 雨量, 着色, 酸素消費量, 銅, 全りん, 全窒素, 温度, pH	1回/日	工場排水
		BOD, n-ヘキサン抽出物質, フェノール類, シアン, 総水銀, 鉄, ジクロロメタン, 1,2-ジクロロエタン, 1,4-ジオキサン	1回/週	
		鉛, 6価クロム, ヒ素, 全クロム, 亜鉛, マンガン	1回/月	
その他	ダイオキシン類特別措置法	ダイオキシン類	1回/年	工場排水
	騒音規制法	法定時間帯での騒音測定	1回/年(自主)	敷地境界(4点)
	振動規制法	法定時間帯での振動測定	1回/年(自主)	敷地境界(4点)
	悪臭防止法	臭気測定	1回/年(自主)	敷地境界(4点)



### 2 官庁への届出実績

法令(五十音順)	組織変更・人事異動等による選解任に関する官庁への届出(2023年度実績)	施設変更等に関する官庁への届出(2023年度実績)
大阪府条例、大阪市指導要領等 覚醒剤取締法 化学兵器の禁止及び特定物質の規制等に関する法律 下水道法、水質汚濁防止法 高圧ガス保安法 公害健康被害の補償等に関する法律 工場立地法 消防法 石油コンビナート等災害防止法 騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法 大気汚染防止法 ダイオキシン類対策特別措置法 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律 毒物及び劇物取締法 土壌汚染対策法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法 エネルギーの使用の合理化に関する法律 労働安全衛生法	57件	510件

## 大気汚染防止法より

SOx、NOxともに大気汚染に関する法規制値を以下のとおり下回っています。

### ■SOx排出量

SOx 発生施設	基準値 (ppm)*	2023 年度実績濃度 (ppm)
液中燃焼炉 (1,2 号機)	39	0.12 ~ 0.14

### ■NOx排出量

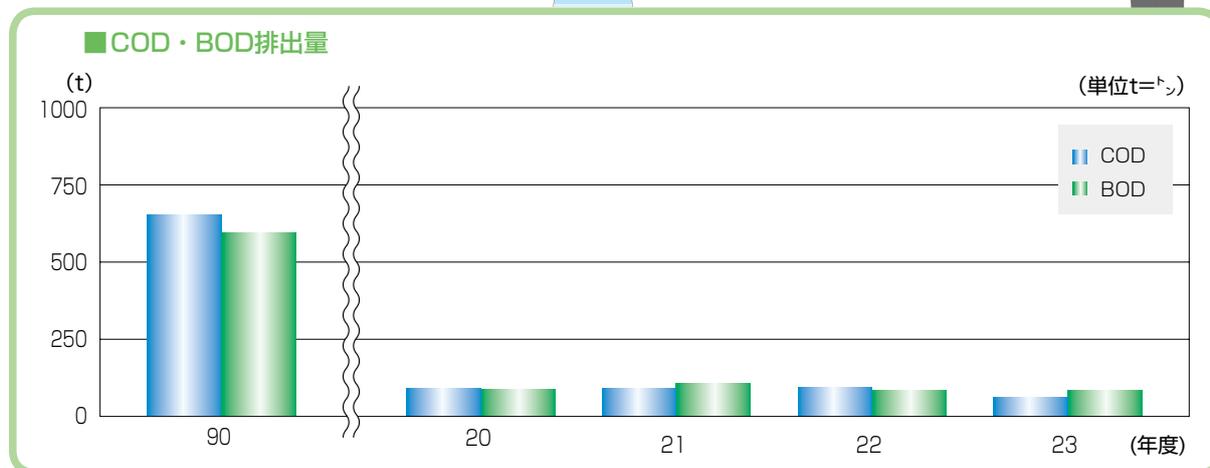
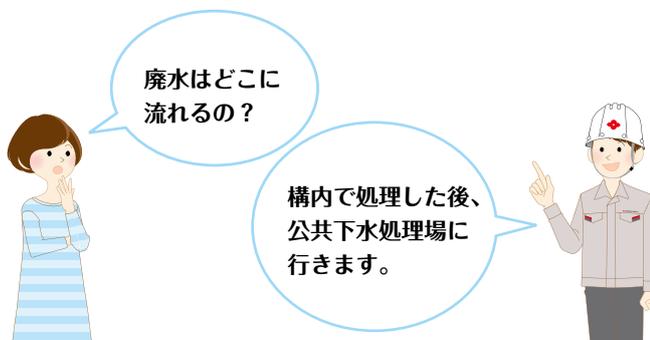
NOx 発生施設	基準値 (ppm)*	2023 年度実績濃度 (ppm)
液中燃焼炉 (1,2 号機)	400	18 ~ 332
ボイラー 1 号	100	19 ~ 27
ボイラー 2 号	100	28 ~ 35
ボイラー 3 号	100	28 ~ 38
ボイラー 4 号	100	29 ~ 44
コージェネレーションシステム4号機	100	0.4 ~ 4
ガスエンジン (1 ~ 5 号機)	100	34 ~ 73

(※大阪市条例による基準値)

※SOx、NOx、液中燃焼炉、ボイラー、コージェネレーションシステム、ガスエンジンのご説明は、P.28をご参照。

## 水質汚濁防止法より

COD、BODの排出量は、下記のとおりです。



大阪工場・研究所の排水は中和・沈澱処理を行った後、下水道へ排出しています。CODおよびBODの排出量が減少して、排水の水質は年々向上し、一般家庭排水の水質に近づいています。

# 大阪工場・研究所などを数字でご紹介

## 地球温暖化防止法より



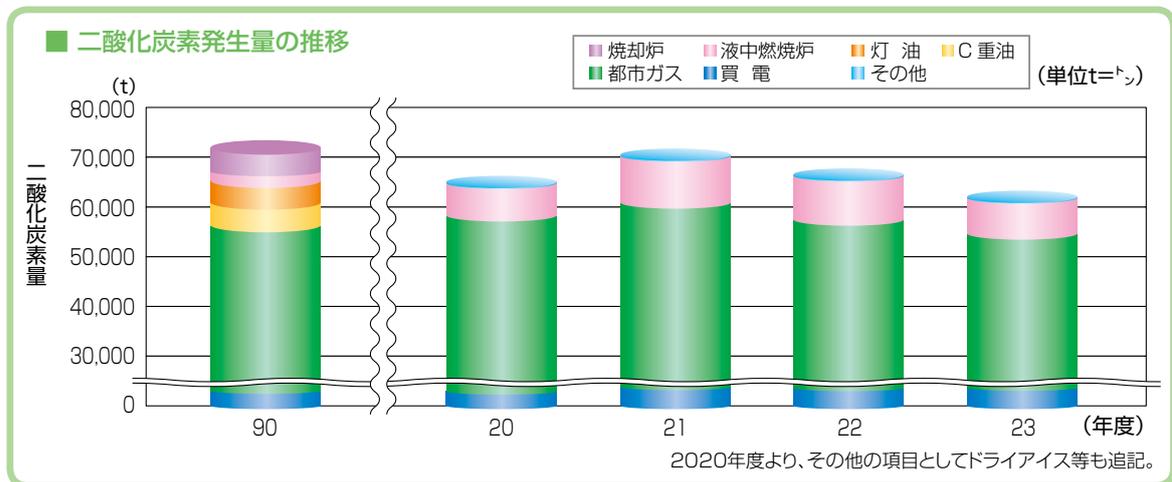
### 二酸化炭素発生量

燃料を燃やしたり、電気などのエネルギーを使用することにより、二酸化炭素が発生します。また、他の二酸化炭素の発生源として燃烧炉があります。

エネルギーの使用による二酸化炭素の発生量と燃烧による二酸化炭素の発生量の推移は、下記のグラフに示すとおりです。

省エネルギー（地球温暖化防止）は、住友化学の方針として取り組んでいくことを宣言し、環境大臣と「エコ・ファーストの約束」を取り交わしています。

大阪工場・研究所でも、エコ・ファーストの約束を踏まえ、省エネルギー活動を推進し、二酸化炭素の発生量の削減に取り組んでいます。



地球温暖化防止への取り組みは行っているの？



二酸化炭素発生の低減に取り組んでいます。

#### ※SOxとは？

イオウ酸化物のことを言います。燃料などに含まれているイオウ分が燃える過程でイオウが酸化されて発生します。のどや肺を刺激し気管支炎など、人の健康への影響があります。

#### NOxとは？

窒素酸化物のことを言います。物が燃えるときに空気中の窒素や燃料中の窒素が酸化されて発生します。人の呼吸器に影響を与えるだけでなく、光化学スモッグの原因の1つになります。

#### 液中燃烧炉とは？

廃液中の有機物を燃烧（900℃以上）するための烧却炉です。燃烧した有機物は水、炭酸ガスになります。

#### ボイラーとは？

水を水蒸気にするための設備です。水蒸気は生産活動やお風呂等の加熱源として使用します。

#### コージェネレーションシステムとは？

燃料を用いて発電するとともに、その際に発生する排熱を冷暖房や給湯、蒸気などの用途に有効利用する省エネルギーシステムです。

#### ガスエンジンとは？

効率の高い発電システムであり、燃料に炭素の少ない都市ガスを使用しており、二酸化炭素の発生を抑制しています。



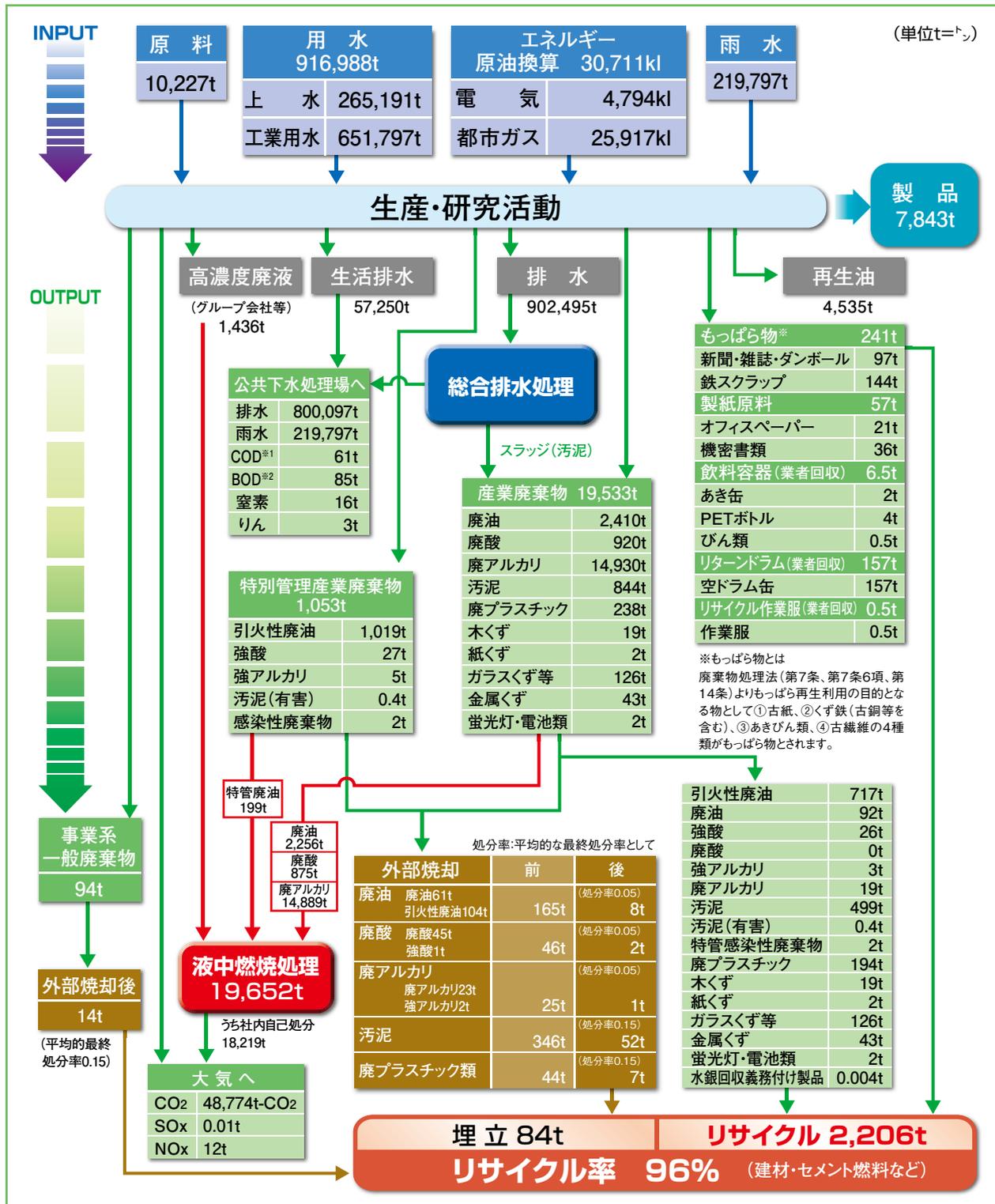
# 廃掃法などより



## 廃棄物などの発生量

事業系一般廃棄物や産業廃棄物などの発生量を示します。

数値は2023年度実績



※1および※2:本レポートP.27をご覧ください。

# 大阪工場・研究所などを数字でご紹介

## 特定化学物質の管理・PRTR法より

### PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 法

PRTR とは、環境に有害な恐れのある物質の大気や水域、土壌などへの排出量および廃棄物として事業所の外へ移動する量を行政に届け出て、公表していく制度です。

PRTR 法「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」の施行により、特定化学物質の環境への排出量等を毎年、大阪府に届け出ることが義務付けられています。

PRTR 法で指定されている化学物質（第一種指定化学物質）は、515物質です。このうち、大阪工場・研究所で取扱っている下の表の 23物質を報告しました。

#### ● PRTR該当物質排出量・移動量一覧表

算定期間：2023年4月～2024年3月  
単位：kg, (ダイオキシン類の場合mg-TEQ)

化合物名	排出量				移動量(注)		
	大気	水域	土壌	排出量合計	下水道	廃棄物	移動量合計
アクリル酸及びその水溶性塩	1.8	0	0	1.8	0	0	0
アセトアルデヒド	55.0	0	0	55.0	0	0	0
エチルベンゼン	120.0	0	0	120.0	19	6,700	6,719
キシレン	120.0	0	0	120.0	19	6,800	6,819
クレゾール	0.4	0	0	0.4	0	0	0
クロロベンゼン	220.0	0	0	220.0	0	82	82
クロロホルム	350.0	0	0	350.0	0	210,000	210,000
1, 4-ジオキサン	46.0	0	0	46.0	15	120,000	120,015
ジメチルアセトアミド	0.0	0	0	0.0	0	3,600	3,600
ダイオキシン類	0.0038	0	0	0.0038	0.68	0	0.68
トリエチルアミン	210.0	0	0	210.0	420	14,000	14,420
トルエン	1,400.0	0	0	1,400.0	330	160,000	160,330
CTAC (ヘキサデシルトリメチルアンモニウムクロリド)	19.0	0	0	19.0	0	0	0
ノルマルヘキサン	3,300.0	0	0	3,300.0	0	1,200	1,200
塩化ベンジル	0.0	0	0	0.0	0	0	0
ベンズアルデヒド	0.0	0	0	0.0	0	1,900	1,900
ホルマリン	300.0	0	0	300.0	2,900	0	2,900
メタクリル酸メチル	72.0	0	0	72.0	0	0	0
SMX (プロシモドン)	0.0	0	0	0.0	0	1,200	1,200
テトラヒドロフラン	4.5	0	0	4.5	0	1,500	1,500
ノルマルヘプタン	410.0	0	0	410.0	0	180,000	180,000
メチルイソブチルケトン	190.0	0	0	190.0	0	240	240
N-メチル-2-ピロリドン	2.6	0	0	2.6	0	4,200	4,200

(注) 移動量とは、大阪工場・研究所外で処理される量です。



● 構内グループ会社からの排出・移動量

構内グループ会社についても、PRTR法に基づき、以下のとおり大阪府へ届け出をしています。

算定期間：2023年4月～2024年3月  
単位：kg.

社名	化合物名	排出量					移動量 <sup>(注)</sup>		
		大気	水域	土壌	埋立 (事業所内)	排出量合計	下水道	廃棄物	移動量合計
朝日化学工業	チオ尿素	0	0	0	0	0	5.8	34	39.8
	ヘキサメチレンテトラミン	0	0	0	0	0	5.2	20	25.2
	ポリ(オキシエチレン)= アルキルエーテル*	0	0	0	0	0	7.7	42	49.7
	ポリ(オキシエチレン)= オクチルフェニルエーテル	0	0	0	0	0	1.2	54	55.2
	ジエチレングリコールモノ ブチルエーテル	0	0	0	0	0	17	57	74
	(1-ヒドロキエタン-1,1-ジイル)ジホス ホン酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩	0	0	0	0	0	1.4	4.8	6.2
	2-(2-メトキシエトキシ) エタノール	0	0	0	0	0	2.8	9.4	12.2
*(アルキル基の炭素数が12から15までのもの及び その混合物に限る。)				合計	0	合計	262.3		
住化分析センター	クロロホルム	0	0	0	0	0	0	1,200	1,200
	ヘキサン	0	0	0	0	0	0	1,700	1,700
	テトラヒドロフラン	0	0	0	0	0	0	2,100	2,100
					合計	0	合計	5,000	
住友ファーマ	クロロホルム	43	0	0	0	43	0	3,800	3,800
	トルエン	8.9	0	0	0	8.9	0	4,400	4,400
	ヘキサン	30	0	0	0	30	0	2,700	2,700
					合計	81.9	合計	10,900	

(注) 移動量とは、構内グループ会社外で処理される量です。

# 大阪工場・研究所などを数字でご紹介

## 環境会計

環境会計とは、環境保全活動を実施するための費用と、その活動から得られる効果を示したものです。継続的に、かつ効果的に環境保全活動を進めていく上で重要な指針となります。

この環境会計の報告は、環境省作成の環境会計ガイドライン2005年版（2005年2月発行）に沿って集計しました。2023年度の当地区の環境会計は以下のとおりです。

## 1 環境保全コスト

分 類		主な取り組み内容	投資額 (百万円)	費用額 <sup>(注)</sup> (百万円)
事業所エリア内 コスト	環境対策コスト	大気汚染・水質汚濁の防止	150	633
	地球環境保全コスト	地球温暖化防止	4	114
	資源循環コスト	廃棄物の適正処理、リサイクル	0	242
小 計			154	989
上・下流コスト		グリーン購入・リサイクル	0	0
管理活動コスト		教育、環境対策組織運営	0	30
研究・開発コスト			0	0
社会活動コスト		緑化、景観改善	0	24
環境損傷コスト			0	0
合 計			154	1,043

(注) 費用額とは、運転費用です。

## 2 省資源・省エネルギー経済効果

項 目	メリット額	単位：百万円
省資源（変動費削減）		160.0
省エネルギー		10.0
合 計		170.0

## 3 環境保全効果

(単位 t = ト)

環境保全効果の内容		単 位	年 度		増 減
			2022	2023	
事業所内効果	NOx 排出量	t/年	17	12	-5
	SOx 排出量	t/年	0.01	0.01	0
	ばいじん排出量	t/年	1	1	0
	排水量	千m <sup>3</sup> /年	848	800	-48
	BOD	t/年	87	85	-2
	COD	t/年	95	61	-34
	CO <sub>2</sub> 排出量	t/年	53,285	48,842	-4,443
	電気使用量（買電）	原油換算 KL/年	6,416	4,794	-1,622
	都市ガス使用量	原油換算 KL/年	25,708	25,917	209
	上水使用量	千 t/年	257	265	8
	工業用水使用量	千 t/年	768	652	-116
	産業廃棄物発生量	t/年	25,240	20,586	-4,654
	外部委託処分量	t/年	2,859	2,369	-490
	一般廃棄物処分量	t/年	93	94	1

# 表紙のことば



株式会社 住化パートナーズ (障害者の雇用の促進等に関する法律に基づく特例子会社)

「地球温暖化による影響で、日本特有の四季が失われつつある現状」に危機感を感じました。そのため、この美しい四季を守りたいという思いから、今回、「四季」をメインテーマに選びました。また、3Rの推進として大阪工場構内の花や、不要となったダンボールなどを再利用して制作しました。

## 美しい四季を守ろう

Reduce・Reuse・Recycle

フォトフレーム

春



フォトフレーム

秋



春夏秋冬が感じられる植物や花、どんぐりで、フォトフレームの中に彩り豊かな四季を表現しました。

枠組みには不要になったダンボールや布ポスターの切れ端を使っています。フィルム部分はクリアファイルを再利用しました。



花壇にて作業と採集の様子



アイロンで押し花作成

また、住化パートナーズが管理している構内の花壇から摘んだ花で、アイロンを使って作った押し花や構外清掃のときに拾って綺麗に洗ったどんぐりで飾り付けました。

その他、折り紙で四季の植物を表現しました。



ダンボール、布ポスター切れ端、クリアファイル



折り紙作品群



ダンボールやクリアファイル、布ポスターの切れ端を使用



干支粘土細工

「辰」

毎年制作している干支の粘土細工では、今年の干支である「辰」に季節の食べ物を乗せて華やかにしました。



紙粘土で季節の食べ物づくり

発行日 2024年10月11日  
編集・発行 住友化学株式会社 大阪工場  
住所 〒554-8558 大阪市此花区春日出中 3-1-98

ご意見・お問い合わせがありましたら下記までご連絡下さい。

大阪工場 総務部(総務)  
電話 06-6466-5022 FAX 06-6466-5463



# 住友化学株式会社

●大阪工場

〒554-8558 大阪市此花区春日出中3丁目1番98号  
Tel : (06)6466-5022 Fax : (06)6466-5463

この印刷製品は、環境に配慮した工場で製造されています。  
P-D10004  
GREEN PRINTING JPP  
本社・本社工場

ミックス  
紙 | 責任ある森林管理を支えています  
FSC  
www.fsc.org  
FSC® C013086

VEGETABLE  
OIL INK

